

愛媛県の東部地域に発生した成人麻疹流行の分析

トミタ ナオアキ
富田 直明*

目的 愛媛県東部地域（以下東予地域）に発生した成人麻疹流行を分析し、保健所における今後の感染症対策のあり方を検討した。

方法 東予地域では、2002年10月～2003年7月の間に成人麻疹（18歳以上の麻疹）および麻疹（17歳以下の麻疹）の流行が発生したが、流行期間中、感染症発生動向調査だけでは把握が困難と判断されたので愛媛県医師会の協力により全数把握調査を行った。また麻疹を診察した医師に患者病状調査票による情報提供を依頼した。さらに成人麻疹多発の原因究明を目的に患者の検体のウィルス検査および遺伝子解析を行った。

成績 2002年10月～2003年7月の間に、麻疹200人、成人麻疹112人、計312人の麻疹患者が報告され、県全体に占める割合は麻疹89.7%、成人麻疹94.1%、全体で91.2%であり東予地域に限定した流行であった。さらに週毎の発生数の推移から成人麻疹発生から麻疹が流行した事例であった。患者疫学調査の結果、ワクチン接種歴無しの割合は麻疹84.1%、成人麻疹59.3%、全体で73.7%であり、接種歴有りの割合は麻疹11.4%、成人麻疹21.9%、全体で15.8%であった。そしてウィルス遺伝子型は全例で中国や韓国の流行株であるH1型であり、H1型を原因とした成人麻疹の流行としては国内初の事例であった。また東予地域での小児科定点の麻疹患者報告数は全数把握の32.0%であり、基幹定点の成人麻疹患者報告数は全数把握の11.6%に止まった。

結論 東予地域では患者発生の極めて少ない状況が数年来続いたので、ワクチン未接種でも感染を免れた成人や小児（とくに年長児）および、ワクチン既接種者でも不顕感染による追加免疫がないために免疫力の低下した者（二次性ワクチン効果不全）が混在したことで成人麻疹の流行が発生したと考えられた。今回の結果より、乳幼児のワクチン接種率の向上と追加接種による学童や若年者への対策が必要である。また麻疹のように感染力が強く局地的に流行する感染症の場合、通常の定点報告では流行を見逃し対応が遅れる可能性が高いため、患者発生状況の的確な把握には、定点数の拡充および地元医師会を中心とした医療機関と保健所の平素からの積極的な情報交換が必要と考えられた。

Key words : 成人麻疹, ワクチン接種, 二次性ワクチン効果不全, 保健所

* 愛媛県西条保健所健康増進課
連絡先：〒793-0042 愛媛県西条市喜多川796-1
愛媛県西条保健所健康増進課 富田直明